



この会報は、共同募金の配分を受けて発行されています。

令和3年3月末日 発行

やまびこ

No.260

発行

公益社団法人
埼玉県手をつなぐ育成会
理事長 高野 淑恵

〒330-0063 埼玉県さいたま市浦和区高砂2-15-3 母子福祉会館内
Tel. 048-833-0444 Fax. 048-833-0400
E-mail:saitama@ikuseikai.jp
ホームページ <http://saitama.ikuseikai.jp>

定価50円
(購読料は
会費に含む)

思い、願うこと...



公益社団法人
埼玉県手をつなぐ育成会
理事長
高野 淑恵

平素よりご支援ご協力いただき
ありがとうございます。御礼申し上
げます。

終わりの見えないコロナ禍の
か、医療従事者の皆様には心より感
謝申し上げます。

今年こそコロナに打ち克つ年にな
りますことを祈念してやみません。

さて、コロナ禍であろうとも、私
たち知的障害者の親たちは、親とし
てやるべきことをやらなくてはなり
ません。親が思い、願うことはみな
同じ、子どもたちが幸せであること、
たとえ親がいなくなっても……。

その気持ちは時代が変わっても
ずっと続いていくものです。たとえ
ば二十世紀初頭に女性作家として
『大地』という作品でノーベル賞と
ピュリッツァー賞を受賞したパール・
バックも重度の知的障害者の母親で
した。彼女は生まれてすぐに宣教師
の両親と共に中国に渡り、そこで結

婚をしました。この地で生まれた娘
には重度の知的障害がありました。

『大地』という作品は1930年頃
の中国の農民一家の物語であり、彼
女は主人公王龍(ワンロン)を通し
て、重い障害のある我が子への思い
を語っています。王龍は父親ですが、

自分の死後、障害のある娘がどうな
るだろうと心を痛めていました。彼
は毒薬を買い、自分の死期が迫った

ら娘に毒薬を飲ませる覚悟をしてい
ました。そんな或る日、王龍は3番
目の妻に頼みます。自分が死んだら、

この薬を娘の食事に混ぜて飲ませて
ほしい、そうすれば、あの子も自分
のあとを追ってこられる、そうすれ

ば自分も安心できるのだ、と。娘の
行く末を妻に頼んでから、王龍は

すっかり安心して穏やかに死んでい
きました。娘は彼の死後、52歳で亡
くなるまで、父が暮らした土の家で

3番目の妻(継母)とずっと一緒に穏
やかに暮らしたのでした。毒薬が使
われることはなかったのです。

王龍も3番目の妻も、パール・バッ
クの娘を思う心の具現化であり、自
分の娘の行く末もこのようであって
ほしいと願ったのでしょうか。

彼女の母親としての苦悩と葛藤
は、『母よ嘆きなかれ』(法政大学出
版局)という著書に詳しく書かれて

います。彼女は娘の障害を「治す」
ことのできる病院を必死に探して、
アメリカ中を旅して回ります。それ
はもう狂おしいほどにです。

その時に出会った人が彼女に言い
ます。

「お子さんは決して正常にはなり
ません。ご自身を欺くことはおやめ
なさい。(中略) このお子さんはあ
なたの全生涯を通じてあなたの重荷
になるでしょう。その負担に耐える
準備をなさい。(中略) このお子さ
んがあなたのすべてを吸収してしま
うようなことをさせてはなりません。
ん。お子さんが幸福に暮らせるとこ
ろをお探しなさい。そしてそこにお
子さんを置いて、あなたは自分の生
活をなさい。」

非常に厳しい言葉ですが、真理で
す。障害を受け止め、乗り越えない
限り親も子も幸せになれません。

「重荷」とか「負担」という言葉は、
今の時代ではもっと柔らかく優しい
言葉で表現されますが、実質は同じ
です。

時を超えて、二十一世紀を迎えて
も、親であるがゆえに苦悩し葛藤し
ている人はたくさんいると思いま
す。どうか独りで抱え込まないでく
ださい。親も子も幸せになるために
私たちの「育成会」は在るのです。

令和2年度 埼玉県手をつなぐ育成会 権利擁護推進事業部主催 オンライン研修会

知的・発達障害のある人の 「コロナ禍での困りごとと その対策について」

又村あおい氏

(一社)全国手をつなぐ育成会連合会
常務理事兼事務局長
(公社)日本発達連盟JLニユース
編集長
内閣府障害者差別解消法
アドバイザー



1. コロナ禍における知的障害者にまつわる問題と課題の整理について。
2. 項目ごとの問題・課題について
3. 問題・課題の解決(改善)に向けて育成会ができること

例年多くの方々に参加いただいております、権利擁護に関する研修会を今年度は、新型コロナウイルス感染症の動向に鑑みてオンライン(YouTube配信)での開催とさせていただきます。質疑応答は不可でしたが、3つのテーマを詳しく説明・解説していただきました。

参加者感想

上尾市手をつなぐ親の会

秋山明美

又村あおいさんの「コロナ禍での虐待・差別の増加と対策」のオンライン研修会に参加しました。

全国統計は取れていないが、児童虐待の通報は過去最高ですとの事。背景には、思うように外出できない。マスク生活で「なんで・なんで」の繰り返し。親子共々疲弊した生活が長く続いている結果、思わず手が出てしまう等。今までの様子と違う親子を見かけたら身近にいる人が声掛けて下さい。声掛けしにくい場合は、事業所・行政に連絡してほしいと思います。

埼玉県手をつなぐ育成会
事務局 渡邊 由香利

又、コロナ禍での困り事とその対策についての話もありました。本人が感染した時、もつとも困るのは重症ではない時の支援体制です。重度の障害があると軽症者療養施設の利用は困難な為、自宅療養になります。その時の為に、介護付き軽症者療養施設整備や家族向けの感染防止衛生用品等の備え。家族が入院してしまった場合にはサービス等の利用計画に新型コロナウイルス緊急対応プランを盛り込んでもらうように、行政への働きかけが必要だと強く感じました。

今回のオンライン研修期間は一カ月間あり又、ユーチューブの配信もあり、子どもの動きに合わせ見直せる事が出来て良かったです。

新型コロナウイルスに感染した方、療養を終えて学校、職場、地域に戻られた方、また、治療に当たっている医療関係者や、社会機能の維持にあたる方とその家族に対して、不当な差別、偏見、いじめ、SNS等での誹謗中傷で、最悪な結果となる報道を多々耳にします。感染が拡大している首都圏に在住して私たちは日々、予防防！自粛自粛！もう一年です。相当のストレスを抱えて過ごすエンドレスロード。まして知的障害を持っている本人さんを支えている家族のストレスは、計り知れないと感じます。感染しても介助が必要で、入院が出来なく、家族で支援していかなくてはならない。まして家族が感染したら本人さんはどうなるの…不安で仕方がない状況におかれている…

育成会ができること…新型コロナウイルス緊急対応プランを盛り込んでもらうことが必要！とのこと。コロナ禍で、誰が調べて動くの？接触最低限でネットワーク環境がない方もいらっしやる。ただ、よりよい方向に進むためにはネットワークも必要。サービスの提供者も受ける側も色々な面で変わっていかねばならないと思います。

「コロナ禍の中でオンラインを駆使して活動している単会を紹介いたします。」

発達支援学習会

「ネット時代の子育て」

講師 『NetMamネット맘』代表

埼玉県ネットアドバイザー

栗原 富智枝さん

1月28日(木) ZOOM学習会

(期間限定配信を併用)

主催：久喜市栗橋手をつなぐ育成会

会長 桜井直美

コロナ禍で、障害のあるお子さん達のネットやゲーム依存の問題がより深刻化。でも、親世代にはわからないことだらけ。そんな声から、今回の学習会を計画。公共施設での開催予定でしたが、コロナ感染者の増加で、我が会初のオンライン研修に変更。3回のZOOM練習会を経ての実施でした。

当日は混乱もなく、無事に終了。講義の中で栗原先生は、ネットに関する被害、心身の発達における弊害、それらに対する保護者の役割をご自身の子育てにおける失敗

談も交えながら、丁寧に伝えてくださいました。

最後のまとめの中で、下記の話がありました。

便利な物がもたらす弊害

- ◇漢字が書けない
- ◇コミュニケーション能力の低下
- ◇計画的な行動能力の欠如
- ◇記憶力の低下
- ◇知識力の低下
- ◇話を聞く力の低下

聞いていて、あれ？自分のことだと気付きました。発達課題を抱える我が子達には、さらに悪影響を及ぼします。その他、親子・人間関係の悪化、心身の健康被害、性の問題、金銭トラブル等々：本人・保護者・支援者向けに、まだまだたくさん学びが必要そうです。栗原先生には、各々のニーズに合わせた研修プログラムの開発を期待しています。

参加者の声

久喜市栗橋手をつなぐ育成会

小林芽美

生まれた時からスマートフォンがある時代の子育ては、親自身が

ネットの事をよく知らなければ大変なことになると怖くなりました。

食事を作る。情報は脳を育てる、情報は人格を育み、情報は人を動かす力がある。

体への影響はもちろん、情緒・人格の形成に多大な影響があること。

画面の向こうは世界につながっていて、悪意のある人が見ると犯罪に至ることさえある事実、一度発信したものは取り消せない。想像する力が必要です。

子どもとメディアの出合いは、子どもの成長段階に応じたものでなければならぬ。約束が守れる、自制心が育っているか。親子の信頼関係、子育てそのものが問われます。

私が一番反省したことは、親子で約束を決めても守れなかった時、一方的に「約束したのになぜ守らなかつた。もうなしよ！」と怒るだけ。なぜ守れなかつたか、どうしたら守れるようになるか親が寄り添い一緒に考えることが大切。これは日々の生活の中でも直視することです。ネットは絶対必要です。このコ

ロナ禍でもつながれるのもネットのおかげです。この素晴らしく便利なものをいかに使うか、子育てのなかにはしっかりと組み込まなければならぬ課題とと思いました。

研修会の様子です

一般社団法人 全国手をつなぐ育成会連合会の会員の皆様へ

手をつなぐがん保険

(団体総合生活保険)

障がいのある方とそのご家族をワイドにお守りする保険です

特長1

代理手続き
代理告知が可能

障がいのある方向けプラン

特長2

告知対象
疾患の緩和

障がいのある方向けプラン

特長3

成年後見
費用を補償

障がいのある方のご家族向けプラン

手をつなぐがん保険に興味を持たれた方は下記お問い合わせ先(取扱代理店)に資料請求をお待ちしております。

【お問い合わせ先(取扱代理店)】
ぎぜんち共済株式会社
 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-5
 九段北325ビル4階
0120-322-150
 TEL: 03-6910-0850
 FAX: 03-6910-0851
 URL: http://www.z-kyosai.com/
 MAIL: gan@z-kyosai.com
(営業時間 平日9時~17時(土・日・祭日・年末年始を除く))

【お問い合わせ先(取扱代理店)】
東京海上日動火災保険株式会社
 公積第一東京公積
 〒100-8014 東京都千代田区三番町6-4
 TEL: 03-5315-4100(営業時間 平日9時~17時)

この広告は、「手をつなぐがん保険」の概要をご紹介したものです。ご加入にあたっては、必ず「(ウェブ)重要事項説明書」をよくお読みください。「手をつなぐがん保険」は団体総合生活保険のネット版です。ご不明な点等がある場合は、代理店までお問い合わせください。

2020年6月作成
20-TC01440

会員の皆さまへ

理事長 高野 淑恵

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、残念ながら、ほとんどの事業を中止せざるを得ませんでした。

唯一、又村あい様に『コロナ禍での虐待・差別の増加と対策』というテーマでオンラインによる研修会を行いました。広く会員の皆さまにご参加頂けなかったことをお詫び申し上げます。

令和3年度もコロナの状況を見ながらの事業展開となりますが、ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

ようやくワクチン接種が始まりましたが、会員の皆さまにおかれましては、くれぐれもご自愛ください。皆さまの活動を再開できますことを祈念しております。



二〇二二年三月末日発行(二六〇号)

新型コロナウイルスの後遺症

新型コロナウイルスから回復した後も何らかの「後遺症」の症状が続く方がいることが分かっています。

海外からの報告では、特に倦怠感や呼吸苦、関節痛、胸痛などの症状が続いている方が多いようです。その他、咳、嗅覚障害、目や口の乾燥、鼻炎、結膜充血、味覚障害、頭痛、痰、食欲不振、ノドの痛み、めまい、筋肉痛、下痢など様々な症状がみられるようです。

また、フランスからは、脱毛、記憶障害、睡眠障害、集中力低下といった急性期にはみられなかった症状も後遺症として報告されています。

日本人を主な対象とした国立国際医療研究センターによる調査でも、咳、痰、だるさ、呼吸苦、嗅覚障害、味覚障害といった症状が、発症60日後も10〜20%、発症120日後も2〜11%でみられました。

また脱毛も全体の24%でみられ、発症から1ヶ月後から出現し、4ヶ月後くらいまでみられることが分かりました。

今のところこれらの後遺症に対する治療法はなく、新型コロナに罹らないことが最大の予防法です。

ホームページをリニューアルしました

知的な障がいのある子どもや、そのご家族が、豊かで、安心して暮らせる社会を目指しています。



URL : <http://www.teotunagu.jp/>
アドレス : saitama@teotunagu.jp

あとがき

ワクチンの順番はいつくるのか待ち遠しい、二度目の桜の季節。ひとりで花見もいければ、誰かと一緒がもつといい。本当の春が早く来ることを願っています。

《事務局 渡邊》

未来あんしんサポート

未来あんしんサポート

親なきあとのこと... お考えですか?

障がいのあるこの子が お金の管理をできるか心配...

この子が経済的に 困らないようにしてあげたい。

この子への想いを 誰かに引き継ぎたい。

お問い合わせはこちらへ

未来あんしんサポートに関するお問い合わせ
ジェイアイシー生命保険信託相談ダイヤル
0120-580-503 通話料無料
受付時間:月~金(祝日・年末年始を除く)9:00~17:00

「生命保険」と「信託」が「親御さまの想い」を確実に未来へのごまします。障がいのあるお子さまの親御さまは、「親なきあと」の生活がご心配のことかと思えます。「未来あんしんサポート」は、「親あるあいだ」に「親なきあと」をご準備いただくためのご提案です。「生命保険信託」の仕組みによって、親御さまがお亡くなりになられた場合にFWD富士生命がお支払いする保険金を、みずほ信託銀行がお子さまのための財産として管理しながら、定期的にお子さまにお届けします。

●未来あんしんサポートについて、詳細は「未来あんしんサポートリーフレット」をご覧ください。●株式会社ジェイアイシーは「個人情報の保護に関する基本方針」と題するプライバシーポリシーを策定し、これに基づいて個人情報の取扱いを行っています。その内容は、株式会社ジェイアイシーのホームページにてご確認ください。●当資料は、2018年6月1日現在の取扱い内容に基づき作成されています。

「未来あんしんサポート」とは、(株)ジェイアイシーがご提案する生命保険と生命保険信託をあわせたサービスの総称です。

【生命保険募集代理店・信託契約代理店】

株式会社ジェイアイシー

本社 〒160-0023 東京都新宿区新宿3-2-11
新宿三井ビル2号館2F
ホームページ www.jicgroup.co.jp

【生命保険引受保険会社】

FWD富士生命保険株式会社

【所属信託会社】

みずほ信託銀行株式会社

登録No.FWD-C1549-1806